

はじめに

当研究所は、市内における保健・環境衛生行政の科学的、技術的な中核機関として、種々の疾病の予防、食の安全確保、また、生活環境の向上のための保健衛生、食品衛生、環境保全に関する「試験検査」、「調査研究」、「研修指導」及び「情報の収集・解析・提供」等に、日々取り組んでおります。

さて、近年の健康危機をめぐる情勢ですが、世界レベルでみた場合、乱開発や温暖化等による動物の生息環境の激変に伴い、エボラ出血熱、MERS、鳥インフルエンザ、ジカウイルス等動物に由来する新たな感染症が流行を繰り返しており、一部の感染症は一衣帯水の近隣諸国でも発生しています。グローバルズムにより、国を越えた人や物の移動が恒常化かつ高速化している中では、これらの危険な感染症がいつ日本で発生してもおかしくない状況にあります。実際、衛生害虫分野ではありますが、国内の複数の港における「ヒアリ」の確認も、記憶に新しいところです。とりわけ、年間300万人以上の外国人観光客が宿泊する本市においては、国際的な感染症の動向について、継続的に注視する必要があります。

一方、国内では、今年に入って、SFTSなどのダニ媒介症により、さらに食品衛生分野においては、去る9月にO157による食中毒により、それぞれ貴重な人命が失われる痛ましい事件が発生しております。

このように、健康危機をめぐる情勢が内外とも決して安穩といえない中で、全国の検査研究機関と連携しながら、迅速かつ正確な検査を通じて正しい情報提供を行うという当研究所の使命は、ますます重要になっているものと認識しております。

このたび、平成28年度における実施事業および調査研究の成果を、年報（第83号）として取りまとめましたので、お目通しいただければ幸いです。今後とも関係機関との連携を図りながら、市民の皆様の健康や安全・安心に寄与する所存でございますので、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

平成30年1月

京都市衛生環境研究所長
齊藤泰樹